

令和6年度決算審査評価事業 調査報告書

(文教厚生分科会 No.1)

| | | |
|---|--|----------|
| (所属課, 事業コード) 事業名 | (保健センター, 5625) 夜間小児救急診療事業 ※P. 37 | |
| 予算額 | 令和6年度決算額 | 49,533千円 |
| | 令和7年度決算見込額 | 50,578千円 |
| | 令和8年度当初予算(案) | 50,068千円 |
| <p>【決算審査における検討点, 争点】 (令和6年度決算審査での提言等)</p> <p>初期対応を担う一次救急の存在が本地域の医療体制を維持していくために必要不可欠であること, 患者数が減少しても事業継続に必要な運営経費は今後もほぼ同額となること, 更に診療所の老朽化も懸念されることなども踏まえ, 丁寧に説明しながら各市の負担金については協議することが今後は必要。保護者にとって「小児の医療の充実」は住むまちを選ぶ際に重要な要素の一つでもあり, 夜間小児救急体制の継続及び充実を進めることは, 「住むまち」の魅力や安心感を更に向上させる子育て支援策の大きな一つであることから, 鹿嶋市にあり続けてほしい。引き続き, できる限り利用者に寄り添った事業であり続けることを期待して, 分科会評価は「継続」とする。</p> <p>【当初予算の反映状況】 (決算評価がどう当初予算へ生かされたか)</p> <p>決算における分科会評価「継続」に対して, 令和8年度当初予算案も予算額は概ね同程度となっていること, また, 決算審査での意見をもとに, 照明のLED化についても早急な対応として令和8年1月に補正予算を上程し, 年度内に着工の予定であることなど, 決算審査での提言も考慮されていると考える。</p> <p>【調査結果】 (総括)</p> <p>少子化に伴い利用者数は減少傾向にあるものの, 本事業は夜間小児救急という大切な役割を担う事業であり無くすことはできない。</p> <p>今後の更なる施設老朽化等に鑑みると, 他の公共施設や学校跡地の転用, さらには民間施設の活用も検討するなど, 本市で引き続き継続していくために先を見据えた施設整備計画等を検討し始める時期ではないかとも考える。</p> <p>また, 各市の負担割合についても引き続き検討していただきたい。そして, 本市のみならず各市における更なる周知についても注力頂きたい。</p> | | |